

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	国際学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 毎年度、教授会にて教員研究組織が「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」と適合しているかについて懇談し、その確認を行う。	1. 指標: 当該年度における教授会での懇談(教員研究組織が「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」と適合しているかについて)の有無  評価基準: 実施した...評価A、実施しなかった...評価D		A	A	A	A
2. 毎年度、言語・文化、社会・ガバナンス、経済・経営領域に関する教授研究会を4回以上開催する。	2. 指標: 当該年度における教授研究会の開催回数  評価基準: 4回以上実施した...評価A、3回...評価B、2回...評価C、1回以下...評価D		A	A	D	A

☆

2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

<p>目標1</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 4月教授会にて、国際学部設置の趣旨等に関する件として、設置届出書、学則抜粋の資料に基づき、次の3点について懇談を行った。(1)国際学部の「理念・目的」について (2)教員研究組織が「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」と適合しているか (3)「教育・研究上の目的」「学位授与方針」「教育課程編成の基本的な考え方」の適切性について</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 完成年度が終わり、理念・目的等の点検を行う必要があること、北米研究・アジア研究の2つのコースが設置の趣旨通り展開できているのか、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の3つの領域について、学生の履修が特定の領域に偏っていないか、設置の趣旨どおり複数分野から学んでいるかの検証が必要である、などの意見がだされた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、毎年度4月教授会にて理念・目的について懇談し、その確認を行い、学術の進展や社会の養成に対応する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度は、次のとおり教授研究会を4回実施した。 7月17日(水)14:00- 報告者: 尹盛熙准教授 テーマ: 対照言語学から見た日本語と韓国語—「役割語」における日韓の違い— 概要: 1. 対照言語学とは 2. 役割語の定義、特徴、種類と事例 3. 日本語における役割語の発達 4. 韓国語における役割語とその特徴 10月2日(水)16:00- 報告者: Craig Mark准教授 テーマ: The Australian 2013 Election: Political and Foreign Policy Implications 概要: 1. Research Method and Aim: Data of 2013 Australian Election 2. Result of the Election and Analysis 3. Policy Implication: Domestic, Foreign and Defence 4. Japan-Australia Relations in the Future 12月11日(水)15:00- 報告者: 高阪章教授 テーマ: 貿易パターンを変えるバリューチェーン 概要: 1. Growing South-South Trade 2. New Patterns of Trade/International Specialization 3. New Industrial Revolution? 4. Global and Regional Value Chains / Japan's Changing Industrial Structure 12月11日(水)16:00- 報告者: 伊藤正一教授・学部長 テーマ: 台湾の少子化と政策対応 概要: 1. 台湾の少子化の状況 2. 台湾の少子化をもたらしたと考えられる要因 3. 台湾における政策対応 4. 外国籍者との結婚について</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学術の進展や社会の要請との適合性を確認するため、今後も教授研究会を実施していく。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 次年度も、言語・文化、社会・ガバナンス、経済・経営領域に関する教授研究会を4回以上開催する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>備考</p>			<p>☆</p>